



特集
ミニセミナー

かけ橋

秋田県立能代支援学校
令和2年12月24日(木)
No. 75

ミニセミナー「こみっと」開催中 です

今号では、2回目・3回目のミニセミナーについて概要をご紹介します。どちらの回も、中学校の特別支援学級から2名の先生が参加しました。少人数のよさを生かし、じっくりと情報交換を行うことができました。

第2回（11月実施）

テーマ「問題行動のある子どもへの支援」

講話・協議の
内容から

問題行動は、人との関係の中で見えるもの。
社会（相手側）の対応が変わると変化することも多い。
原因、目的、こだわりなど・・・背景によって介入の仕方が変わる。

支援の際は、
思春期の特徴や欲求、
心の揺れなども
丁寧に確認したい。



例えば、
不器用さを抱えているならば、
子どもの力を高めるための支援と同時に
周囲が本人に寄り添う中で、
改善の手がかりを見出したい。

学年相応の学習も大切だが、自立的に過ごすための支援
（生活習慣の確立など）も大切。子どもの将来を見据えた支援を。



「相手への関わりが強すぎる子」
「ことばよりも先に手が出てしまう子」など
27の具体的な子どもたちの姿と、指導や
支援の方向性が取り上げられています。



参考 -今回使用した図書の紹介-

『<発達のはつまずき>から読み解く支援アプローチ』 川上康則（2010 学苑社）

・・・はつまずきのサインが見えてくると、「こんな指導・支援があれば伸びゆくのではないか」と洞察的に考えることができます。また、子どもたちが育つのをじっくりと待つこともできるようになります。子どものことがわかり、“心の構え”を大きくすることができれば、世の中の大人たちがもっと元気になれるような気がするのです。（「おわりに」より抜粋）

第3回（12月実施）
テーマ「授業における支援」

講話から

- ・指導に当たっては、個のニーズを把握すること、子どもを知ること、どう育てるかを検討することの3点が大切。ニーズは一人一人異なる。子どもは環境によっても変わる。優先的な課題は何かを考えたい。
- ・苦手な面よりも得意な面を伸ばすこと、本人が困らないための力を育てること、両方とも大切である。子どもに応じて支援を考えていけるとよい。

協議から



〈各校における日々の困り感〉

- 自分の気持ちや考えを上手に伝えるための手立ては？
- 本人が納得できるような対応方法は？
(漢字の書き取りミスなどに対する指摘のしかた)
- 勉強への意欲を高めるための支援は？ など

〈協議で挙げられた話題〉

苦しさは、スキルからくるものか、心理面からくるものかを考えたい。
理由や背景を捉えた上で、人とかがわる力を身に付けられるようにしたい。

ソーシャルスキルトレーニングや会話場면을授業としても取り上げながら、状況に応じて行動できる力を育てていってはどうか。

特別支援学級では子どもに合わせて指導ができる。
個々に必要な内容を、大胆に取り入れてみてもよいのではないか。



第4回目は、1月13日（水）に実施します。テーマは「次年度への引継ぎ」です。
追加での参加も受け付けておりますので、ご希望の方は下記までご連絡ください。

☆特別支援教育に関わる情報提供や相談等、お気軽にお問合せください。

教頭 伊藤登美子 教育専門監 小笠原英紀 地域支援部主任 船山 真生
TEL 0185-55-0691 FAX 0185-55-0681
ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp> ☆新しくなりました。
E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp